

I. 広東省

1. 人事異動

●先頃、省党委員会は陳旭東・肇慶市長が中山市党書記に就任することを決定した（8月6日付『南方日報』）。

2. 改革の全面深化に関する省指導グループ第27回会議の開催

●7月31日午前、胡春華・省党書記主宰の上記会議で、改革の全面深化に関する党中央指導グループ第36回、第37回会議で習近平・総書記が述べた重要講話の精神を伝達・学習し、改革関連文書について審議し、農村改革の進捗状況について聴取。馬興瑞・省長も出席（8月1日付『南方日報』）。

3. 「ハー」軍隊サポート慰問団が各地で慰問活動

●7月31日午後、胡春華・省党書記率いる省「ハー」軍隊サポート・慰問団が南部戦区の某部隊を慰問するとともに、関連大会に出席し、次のように強調した。習近平同志を核心とする党中央の周囲で一層緊密に団結し、広東省に対して総書記が出した「4つの堅持、3つの支え、2つの率先」という要求に基づき、共に軍民融合の新たな章を記し、優れた成果を上げて、第19回党大会を勝利のうちに迎えよう。常丁求・南部戦区副司令官が同大会に出席するとともに講話を行なった（8月1日付『南方日報』）。

●7月31日、馬興瑞・省長一行が95112部隊（佛山市、空軍レーダー部隊）、28日午前、李玉妹・省人代主任一行が省公安消防総隊特勤大隊、24日午前、王栄・省政協主席一行が92962部隊（江門市台山、海軍高速艇部隊）をそれぞれ慰問するとともに、関連大会に出席（8月1日付『南方日報』）。

4. 習近平・総書記が省・部クラスの主要幹部に対する特別研修の開始式で述べた重要講話の精神の伝達・学習

●7月31日午後、李玉妹・省人代主任主宰の省人代常務委員会党組織拡大会議で上記重要講話の精神を伝達・学習（8月1日付『南方日報』）。

●1日、馬興瑞・省長主宰の省政府党組織会議で上記重要講話の精神を伝達・学習（8月2日付『南方日報』）。

5. 広東省中国人民解放軍創設90周年ならびに広州起義90周年祝賀座談会の開催

●1日、馬興瑞・省長主宰の上記座談会が開催され、胡春華・省党書記が出席するとともに講話を行い、次のように強調した。習近平・総書記の強軍思想を深く学習・貫徹し、習近平同志を核心とする党中央の周囲で一層緊密に団結し、政治意識、大局意識、核心意識、看齐意識を適切に強化し、輝かしい歴史を銘記し、紅軍（中国人民解放軍の前身）の遺伝子を継承し、経済建設と国防建設を統一的に推進し、優れた成果を上げて第19回党大会を勝利のうちに迎えよう。袁營柏・南部戦区司令官、周為民・広州軍区善後策弁公室政治委員、李玉妹・省人代主任、王栄・省政協主席も出席（8月2日付『南方日報』）。

6. 許瑞生・副省長がスイスの建国レセプションに出席

●1日、許瑞生・副省長が在広州スイス総領事館の招きを受け、上記レセプションに出席し、次のように述べた。スイスは広東省からの観光客が欧州観光に出かける重要な目的地の1つである。2016年、その観光客数はのべ10万人を超えた。同省は現在、「一帯一路」建設に力を入れており、「一帯一路」イニシアチブの積極的な支持者かつ参加者としてのスイスには、将来的に製造業、金融業、科学技術イノベーション等の分野において、同省との実務協力を更に拡大していただき、両地域の関係が更なる高みを目指すよう推進し、中国・スイスの戦略的パートナーシップを前向きに発展・刷新していくために新たな貢献をしていきたい（8月2日付『南方日報』）。

7. 貧困村を社会主義新農村モデル村に作り変えるための全省業務会議の開催

●2日、馬興瑞・省長主宰の上記会議が開催され、習近平・総書記による政治運営の新理念・新思想・新戦略、広東省に対する重要指示の精神を深く貫徹し、省党第12回代表大会の要求を実行し、省指定の2277の貧困村の改造業務に関する動員・手配を行い、広東省の新農村建設を全面的に推進した。胡春華・省党書記が出席するとともに講話を行なった。王栄・省政協主席も出席。同省では3年で成果が表れるようにし、5年で大きく向上させ、約10年の時間をかけて、農村の立ち後れた状態を変えていく（8月3日付『南方日報』）。

8. 馬興瑞・省長が米国の賓客と会談

●2日、馬興瑞・省長が米ミシガン州知事率いる州政府代表団一行と会談。馬省長は素材、自動車産業、現代的な栽培

業や特色のある農業、経済・貿易、投資、教育、金融、観光、科学技術イノベーション等の分野で協力を強化していきたいと述べた。ミシガン州側は広東省に「M C I T Y」スマート自動車テスト拠点を設立し、自動車産業、科学技術イノベーション、中小企業の育成等の分野における交流・協力を更に強化したいと伝えた（8月3日付『南方日報』）。

●2日、馬興瑞・省長が米カリフォルニア州財務局長率いる州政府代表团一行と会談。広東省と同州は2014年に友好省・州関係を締結。馬省長は、将来的に両地域は引き続きその友好関係のプラットフォームを利用することができ、投資、貿易、科学技術、教育、観光、環境保護、人や文化の交流等の分野における実務協力を深め、交流の形を多様化させるよう推進し、双方の交流・協力を更に強化していきたいと述べた（8月3日付『南方日報』）。

9. 胡春華・省党書記が仏山市を視察

●3日～4日、胡春華・省党書記が仏山市を訪れ、科学技術イノベーション関連業務を視察し、次のように述べた。イノベーションによる発展戦略を踏み込んで実施し、ハイテク企業がコア・コンピタンスの研究開発を強化するよう推進し、製品と技術の応用を拡大し、絶えず発展するよう推進していかなければならない（8月5日付『南方日報』）。

10. 黄寧生・副省長がガンビア共和国の賓客と会談

●4日、黄寧生・副省長がガンビア共和国外務・国際協力・領事事務大臣一行と会談し、次のように述べた。広東省はアフリカ諸国との交流を非常に重視しており、双方の協力は実り多い成果を得ている。2016年より、同省と同国の経済・貿易、投資等の分野における協力も進展している。中国の貿易に強い省として、同省は同国との交流・協力を深め、相互連結（コネクティビティ）を推進していきたいと考えており、同国の工業・商業界から同省の各種展覧会へ参加することを歓迎する（8月5日付『南方日報』）。

II. 広州市

1. 「ハー」軍隊サポート慰問団が各地で慰問活動

●先頃、任学鋒・市党書記一行が南部戦区機関と連絡・指揮センター保障部隊、温国輝・市長一行が南部戦区空軍、28日、陳建華・市人代主任一行が広州軍区善後工作弁公室、劉悦倫・市政協主席が省軍区をそれぞれ慰問（8月1日付『広州日報』）。

2. 習近平・総書記が省・部クラスの主要幹部に対する特別研修の開始式で述べた重要講話の精神の伝達・学習

- 7月31日、任学鋒・市党書記主宰の市党常務委員会議で上記重要講話の精神を伝達・学習（8月1日付『広州日報』）。
- 1日、劉悦倫・市政協主席主宰の市政協党組織拡大会議で上記重要講話の精神を伝達・学習（8月2日付『広州日報』）。

3. 各種会議の開催

●7月31日、任学鋒・市党書記主宰の市党常務委員会議が開催され、胡春華・省党書記が広州市の科学技術イノベーションを視察した際の指示を伝達・学習し、それを貫徹・実行するための業務を手配。また、市党委員会業務規則、党内の法規・制度の構築、及びその重点任務の分担案、空港経済エリアの開発等について審議し採択（8月1日付『広州日報』）。

●1日、劉悦倫・市政協主席主宰の2017年広州市経済発展「上半期をどう見るか、下半期をどうするか」協議座談会が開催され、任学鋒・市党書記が出席するとともに講話を行い、温国輝・市長が上半期の経済動向について報告した（8月2日付『広州日報』）。

●2日午後、温国輝・市長主宰の市政府常務会議が開催され、「広州市都市ガス発展計画（2016年～2020年）」、「広州市郷・村建設計画許可証実施弁法」について審議し採択（8月3日付『広州日報』）。

●4日、広州市がごみの分別・処理を深め、生活ごみを強制的に分別するよう推進していく業務の動員・手配に関するテレビ会議を開催。任学鋒・市党書記が主宰するとともに講話を行い、温国輝・市長が業務を手配（8月5日付『広州日報』）。

4. 温国輝・市長が南方電網公司董事長等と意見交換

●3日午後、温国輝・市長が南方電網有限責任公司を訪れ、李慶奎・董事長等と意見交換を行い、次のように要望した。広州開発区（中国・シンガポール広州知識城）を電力供給増量の改革試行地区とすること、広州市による電気自動車（EV）充電ステーションの建設、共同溝の建設とその管理をサポートするとともに、広州市の電力ネットワークの設計・建設に力を入れ、同市の経済・社会が持続的かつ健康的に発展できるよう、良好な電力保障サービスを提供してもらいたい（8月4日付『広州日報』）。

Ⅲ. 深圳市

1. 「ハー」軍隊サポート慰問団が各地で慰問活動

● 7月31日午後、王偉中・市党書記一行が深圳駐在の某部隊と省公安国防衛総隊深圳分隊、28日午前、陳如桂・市長代理一行が深圳警備区と深圳にいる一部の香港駐在部隊、31日午前、丘海・市人代主任一行が深圳駐在の某部隊と武装警察深圳分隊、27日午前、戴北方・市政協主席が福田区の某部隊と市公安消防分隊をそれぞれ慰問（8月1日付『深圳特区報』）。

2. 習近平・総書記が省・部クラスの主要幹部に対する特別研修の開始式で述べた重要講話の精神の伝達・学習

● 7月31日午後、陳如桂・市長代理主宰の市政府党組織拡大会議で、上記重要講話の精神を伝達・学習（8月1日付『深圳特区報』）。

● 2日、戴北方・市政協主席主宰の市政協党組織拡大会議で、上記重要講話の精神を伝達・学習（8月3日付『深圳特区報』）。

3. ダイレクト・ゲノミクス社が新世代のゲノムシーケンサーを自主開発

● 7月31日、賀建奎・南方科技大学准教授（兼ダイレクト・ゲノミクス董事長）の研究チームが自主開発した世界初の単一分子ゲノムシーケンサー（GenoCare アナライザー）を正式に発表した。これは現在、世界最高の精度を有し、かつ唯一臨床用途向けに設計された精密機器であり、その技術水準は世界をリードし、グローバルな遺伝子産業において、イノベーションの新たな高地を占めている（8月1日付『深圳特区報』、『南方日報』）。

※ダイレクト・ゲノミクス（深圳市瀚海基因生物科技有限公司）：留学帰りの1980年代生まれ（80后）である賀教授が2012年に創設。チームの平均年齢は28歳。現在、同社は米国、ドイツ、日本、台湾、香港の病院・大学・研究機関から注文を受けている。

4. 王偉中・市党書記、陳如桂・市長代理が米ミシガン州知事一行と会談

● 3日午前、上記会談で王偉中・市党書記は次のように述べた。双方が広東省・ミシガン州友好交流・協力関係の枠組みの下、「深圳・ミシガンセンター」の共同建設を急ぎ、電子情報産業、自動車製造業等の分野ですべてがつながるような協力を深めていくとともに、教育、人材、観光等の分野においても絶えず協力空間を広げていきたい（8月4日付『深圳特区報』）。

5. 深圳グラフェン産業チェーン専門パークがスタート

● 3日、深圳市グラフェン産業フォーラム、グラフェン産業チェーン専門パークの開設式典が開催され、同業界の著名な専門家、企業代表者、機関代表者等100人余りが集い、同産業の最先端技術と発展の方向性について踏み込んだ検討を行なった。同市は全国で最も良好なグラフェンの産業化市場を有し、科学技術・研究開発から生産・製造、商業化に至る一連の産業チェーンをカバーしており、ファーウェイ、BYD等の業界大手が集積している（8月4日付『深圳特区報』）。

6. 中央精神文明建設指導委員会弁公室の再検査チームが深圳市を視察

● 3日～4日、呉向東・上記第二局長率いる再検査チームが深圳市を訪れ、同市の文明都市の構築に関する業務を再点検。4日午後、王偉中・市党書記が陳如桂・市長代理主宰の座談会に出席し、中央と省の同弁公室に業務状況を報告。丘海・市人代主任、戴北方・市政協主席も出席（8月5日付『深圳特区報』、『南方日報』）。

7. 深圳港湾で日本産の密輸果物を差し押さえ

● 先頃、深圳検査・検疫局は皇崗税関で日本産の密輸果物を差し押さえたが、その一部は放射能漏れの影響を受けている地域から来たものだった。差し押さえの後、放射能検査が行われた（8月6日付『深圳特区報』）。